

NIEを通じて、中高生の社会への興味・関心を高め、学力を身につける

武庫川女子大学附属中学・高等学校 社会科教諭 田村 肅

1. はじめに

本校は、平成22年度からNIE実践校の指定を受けた。以下に、社会科を中心とした1～3年目の取り組み(主として3年目)と、今後の課題についてまとめる。

2. 学校全体としての取り組み

① NIEコーナー（新聞閲覧室）を開設

- ・平成22年2学期から新聞購読開始
(6紙；朝日・読売・毎日・産経・神戸・日経)
- ・購読開始と同時に、食堂の一角を利用し、「新聞閲覧室」を開設
(目的)生徒が集まり易い食堂に設置することで、新聞に親しむ機会を増やしていく
(現状)3年間活動を続けたことで、少しずつ部屋の認知度が増し、新聞を読む生徒が増えてきた

② 閲覧室活性化の活動

- ・日経写真ニュースの掲示
(写真で生徒の注意・関心をひく)
→ 24年度途中から来なくなる
スポンサーが撤退し、新しいスポンサーを探している最中
- ・生徒の活躍が掲載された新聞記事を、掲示板を作り掲示。同時に放送部の協力のもと、昼休みに全校放送で宣伝
- ・興味深い記事の特集をつくって掲示
(東日本大震災など)

② その他

- ・神戸新聞の「週間まなび〜」にジュニア

記者として中学生4名が参加

- ・中学3年生の総合的な学習の一環として、朝日新聞社から記者派遣を受け、講演会を実施
- ・中学3年生でスクラップノートを作成
新聞をとっていない家庭の子どもはNIEコーナーでコピーをとらせる

本校のNIEコーナー



- ・平成23年度より、コピー機を設置、バックナンバー保管用の棚を設置することで、使い勝手を向上させた

3. NIE実践校の指定を受けるメリット

① 無料で新聞が購読できる（原則2年間）

A型…教師が1人、もしくは2人で実践
新聞1銘柄につき1部を延べ2ヶ月

B型…3人以上の教師による実践

(本校が該当)

新聞1銘柄につき1部を延べ4ヶ月

新規校の場合は、指定を受けた年の9月から実施可能

継続校の場合は、4月から実施可能

本校は、生徒数が多く、中高一貫校でも

ある。社会科の教員全員で取り組むため、B型で申し込んだ。

②新聞記者の派遣

注意事項

- (1) 派遣要請は希望日の1か月前までに
- (2) 派遣希望日は第1希望から第3希望まで伝える
- (3) 希望する話のテーマと目的を明確に
- (4) 授業の時間、児童・生徒の人数、場所を明確に
- (5) 授業する場所でパワーポイント、ビデオ（DVD）が使用可能かどうかを明らかに

③その他

各新聞社やNIE協議会などからの、NIEに関する、様々な情報の提供
NIE指定校・継続校への新聞社の取材など

4. 中学3年生の取り組み～公民・LHRの授業を通して～

①公民の授業において

(1)スクラップブックの作成

毎週新聞スクラップブックの提出を義務づけ、定期的に新聞に触れる機会をつくった。また、皆の前で記事についての要点、自分の考えを述べさせた。

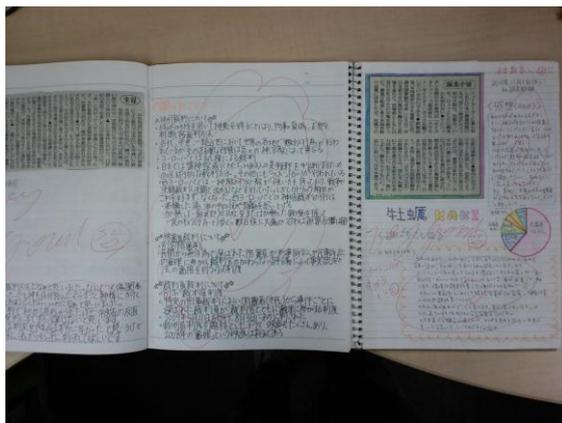
<新聞スクラップの概要>

- ・毎週、気になった記事を1週間ごとに1つ選びスクラップさせる。また、自分なりに補足することなどを調べさせ、まとめを書かせる。順番に発表もさせる。

- ・学期ごとにスクラップする記事のテーマを決める
- ・スポーツ新聞、小学生新聞は不可とする

- (例) 1学期；自分の気になった記事
2学期；政治・経済に関する記事
3学期；政治・経済に関する記事

生徒の作成したスクラップブック



教師も「これは教えておきたい」という記事や、授業で教えている内容に関する内容の記事などを配布し、生徒の興味・関心を促した。

(2)朝日新聞スクラップコンクールへの応募

1学期に培ったスクラップブック作りのノウハウをもとに、夏休みの宿題として、1つのテーマに沿った7日分の記事をまとめたスクラップブックを作成させた。(結果 → 佳作2名 学校賞受賞)

(3)裁判所見学の企画

夏休みの特別講座として、社会科で裁判所見学を企画したところ、約30名の応募があった。(大阪地方裁判所を見学)

このような講座に多数の応募があったということ自体、社会的事象に関しての生徒の関心が高まってきているといえる。

③ LHRや総合的な学習の授業において

(1) 修学旅行のまとめを新聞形式で作成
(作成・発表時に読売新聞社の取材を受ける)

3泊4日の熊本・長崎への修学旅行について、新聞形式でまとめた。(個人で作った新聞を文化部発表会で展示)

また、班ごとに「武庫川女子大学附属中学校の紹介新聞」を作成。本校に興味を持っている受験生や保護者向けに展示した。見学者によるコンテストも行い、上位に入った個人、班の新聞は、作成した生徒に対して学年集会で表彰を行った。

生徒の作成した武庫女紹介新聞



生徒の修学旅行個人新聞

(2) 朝日新聞による記者派遣

朝日新聞社の塩田記者をお迎えし、新聞記者の一日や、印象に残った記事、新聞記者になったいきさつなどについて興味深い話を伺った。生徒達からも、「現役的女性記者の方から具体的な話を聞けて大変参考になった」との声が聞かれた。



記者派遣後、本校の中学3年生の代表生徒2名が取材を受けた。この内容は、後日、朝日新聞に掲載された。

取材の様子



4. その他の学年の取り組み

- ・ 中学1年…地理の授業で新聞記事を紹介、夏休みの課題で、自分の興味のある外国についての個人新聞を作成
- ・ 中学2年…LHRや総合的な学習の時間を使い、1学期に行った合宿研修の班新聞を作成
- ・ 高校1年…教科担当から、その時々ニュースについての解説を行った
- ・ 高校2年…日本史の授業で、歴史に関する新聞記事をスクラップさせて提出
(夏・冬休みの自主課題)
- ・ 高校3年…政治経済の授業で、新聞記事をスクラップさせる
優れた内容のものは、コピーをとり、対象生徒全員に配布

6. おわりに

1年目に目標にしていた、「生徒たちが新聞に定期的に触れることで、新聞を身近に感じ、新聞を通して社会の出来事に興味・関心を持たせること」については、継続して取り組んできた結果、ある程度の成果が出たように思う。

特に、中学3年生は毎週のスクラップの宿題や、折にふれて新聞を使った授業の取り組みをしていたので、かなり社会的な事象に対する関心が高まった。例えば、社会科の授業で時事問題を話題にする際も、生徒から活発な意見が出るようになった。

また、2年目の目標としていた、「N I

Eを中学3年生以外の他学年にも広げ、中高一貫校として中学1年から高校3年まで6年間を通じて系統的な取り組みを行い、社会科だけではなく、他教科とも連携して取り組んでいく」ということに関しては、特に中学2年生を、中学3年生への事前学習期間とすることで、結果が出てきた。そのために、中学2年生で新聞を使った取り組みを、かなり積極的に行った。

また、家庭科でも食に関する新聞記事を授業で積極的に取り上げていくなど、様々な教科で新聞は活用されている。このような取り組みを、来年度につなげたい。

3年目の目標は、「本校の中学3年生を終了した時点で、皆が新聞を読めるようになり、高校生でも継続して新聞を読める生徒を育てていく」こととした。

3年目を終えた現在、当初の目標は、生徒によって個人差はあるものの、ある程度達成できたのではないかと考えている。

学校全体で、新聞を活用し、生徒の力を伸ばしていくという目標は、着実に結果を出している。今年度からは、指定校も継続校もはずれる形になるが、本校で独自に予算を用意し、N I Eコーナーを存続させることができた。(朝日・読売・毎日・神戸の4紙を継続して購読することになった)

今後も今までの経験を生かし、さらに徹底した指導を行いたい。